

法人所得 過去最高85兆円

22年度国税庁 飲食店業が好調

国税庁は1日、2022年度の法人の申告所得総額が前年度比7・0%増の85兆106億円となり、過去最高を更新したと発表した。総額が80兆円を超えたのは初めて。料理・旅館・飲食店業が特に好調で、担当者は「大半の業種で申告額が増加し、新型コロナウイルス禍を脱出したような数字になっている」としている。



年からの伸びが最も大きかったのは料理・旅館・飲食店業で、前年度比27・3%

増の8499億円。コロナによる行動制限の緩和が追い風になったとみられる。次いで伸び率が大きかったのが、卸売業の同19・3%増(8兆4627億円)。運送業の同16・8%増(6兆3336億円)が続いた。一方、田安を背景に建築資材の高騰が続く建設業は同1・9%減の5兆9135億円で、業種別で唯一のマイナスとなった。

申告法人税額は同7・1%増の14兆9099億円。法人数は11年連続で増加し、334万1千社で過去最高だった。申告件数は312万8千件で、黒字申告の割合は前年度から0・5%増えて36・2%だった。申告所得総額はコロナ禍の影響を受けた19年度に減少し、20年度からは3年連続で増加している。